

子宮頸癌腔内照射治療における3次元治療計画の最適化に関する研究

【はじめに】

放射線治療の第一の目的は腫瘍制御です。子宮頸癌は腫瘍に対し十分に放射線を投与できればそれに応じた腔内照射が行われ、十分な線量が照射できるものは早く治るが、腫瘍径の大きなものや腔内照射の照射範囲から外れるものは、再発の確率が高くなります。そこで、子宮頸癌における3次元治療計画の最適化する手法を考案する意義は大きいと考えます。

【研究対象】

鹿児島大学病院放射線部治療部門において2010年4月1日から2015年12月31日までの期間で、子宮頸癌腔内照射治療を受けた方の100症例画像を対象としております。

【研究内容】

この研究では、鹿児島大学病院放射線部治療部門で2010年4月1日から2015年12月31日までの期間で、子宮頸癌腔内照射治療を受けた方の放射線治療情報や画像を使用します。この研究の目的は、治療計画CT画像、治療直前のMR画像、PET-CT画像、病理画像と放射線治療計画装置内のDICOM-RTデータを利用した3次元治療計画の最適化する手法を開発することです。

【個人情報の管理】

本研究の実施には、患者さんを特定できない画像データを使用し、実施過程及びその結果の公表(学会発表や論文等)の際にも、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。対象となることを希望されない方は、下記連絡先までご連絡下さい。

【データの二次利用】

本研究に用いる画像データに関しては、九州大学大学院医学研究院保健学部門医用量子線科学分野の有村秀孝教授の責任の下、データの保存期間を実験終了後10年とする。教科書、講義等の教育目的(社会人教育も含む)で治療計画データ、画像を二次利用する可能性があります。

【研究期間】

研究を行う期間は承認日から平成33年3月31日です。

【医学上の貢献】

この研究により、腫瘍制御のさらなる向上及び正常組織有害事象確率の低減が可能となることから、医学上の貢献があると考えます。

【研究機関・組織】

九州大学大学院医学研究院保健学部門医用量子線科学分野

教授 有村 秀孝(責任者)

大学院生 奥 好史

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科放射線診断治療学教室・教授・吉浦敬

連絡先：〒812-8582 福岡県福岡市東区馬出3-1-1 Tel 092-642-6719 (有村 秀孝)